

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人秀和会釣船医院グループホーム『おお空』
（ユニット名）	満天
所在地 （県・市町村名）	851-0115 長崎市かき道1丁目29番8号
記入者名 （管理者）	寺尾 司
記入日	平成 19 年 8 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いっしょに いつも いつまでも」のスローガンを掲げ、入居者と共に末永く、安心して暮らせる場所を提供するために努力しています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の意識づけを、管理者・職員に徹底し、利用者に信頼され、安心される介護に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業所パンフレットに記載し、ホームだよりにも記載し関係者にも理念の浸透をはかるなど、職員にも理念の自覚を促し、その意味を理解し、実行できるように取り組みたい。		
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃より挨拶を交わし、近所が看板屋さん・ガソリンスタンドにて お客様の関係があり、何かあったときは(緊急時・避難災害時を含めて)、協力をお願いします。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事には積極的に参加し、草むしり・お祭り・運動会・ペーロンの応援、ホームでの催し物など、今後も地域の関わりの中で参加、協力して頂ける様に努めて生きたい。	○	高齢の利用者方もおられ、全ての行事の参加は無理だとしても 普通の暮らしの中で地域との関わりを大事にしていきたい。

グループホーム「おお空」 満天

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の幼稚園の園児とホームのとの交流、中学生の職場体験での交流、地域にお住まいの高齢者を招いてボランティア参加など、色々な方の御協力も得られ、今後も要請・参加に勤めていきたい。	○	地域の職場体験の交流では、中学生による、出し物の参加による高齢者との関わりを含めて、プルタブを集めて車椅子を頂きました今後も教育関係・地域交流と協力参加に勤めたい。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、市の指導監査の指摘事項を職員、運営者を含め話し合いをし、改善点の取り組みは対応に努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での苦情・ご不満・ご指導など、ご指摘の件は運営者・職員間で話し合い次回の会議までに解答できるようにしてます常にホームむの現状報告も関係者に伝え理解を求め、サービス向上に努めています。	○	議事録にまとめ、指導・苦情・改善点・など努力目標に掲げ次回の運営推進会議で説明をし職員にも徹底させてます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市管轄の指導要項など改善するなど努力に努めて、分からない点など市の関係者と連絡をとってます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護を理解するとともに、職員にも勉強会・講習会などの機会を作り、必要な方には活用する話し合いの場を設け、説明したい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言・暴力など拘束・虐待に繋がるおそれの対応には、未然に職員・運営者・御家族と関係はかり話し合います。基本的には傾聴。見守りでの対応で、言葉の配慮・自尊心を傷つけない方針で努めている。		

グループホーム「おお空」 満天

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を頂き、契約に関する説明、重要事項への疑問・質問 入居されてからの、利用者に関わる説明と理解など丁寧に、分かりやすく心がけて説明させて頂いてます。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の利用者・御家族の苦情・不満・ご指導・など職員が敏感に汲み取り、職員で話し合い後、利用者・御家族に説明し理解を得る、また改善点があった場合運営者を含め職員に徹底し共有意識をもって対応する。重要案件は家族説明、運営推進者会議で報告・説明してます。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会、入居金など納めにホームに来られた折りになど日頃の暮らしの様子、体調などの変化など、職員の情報を把握し正確に伝え、金銭の管理は毎月決算(領収書)報告をしています。職員の移動など利用者に混乱させない配慮をしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設けて対応しているが御家族の遠慮もあり中々本音の声は職員に伝わってこなく来訪の際に日頃の暮らしぶりを報告と同時にホームに対するご意見・ご指導・不満・苦情・伺い、また何でも言える雰囲気や日頃より構築し信頼関係が良好なるよう努めてます。	○	今後の方針は催し物を兼ねた家族会を開き交流の場を持ち、外部に安心して意見等を表せる機会を設けたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の悩み相談や運営業務に携わる決定事項など日頃より会話とり意見を把握し会議で話し合い調整をはかり関係を密にとっている、		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	限られた人数の中で状況に応じて必要数の職員を確保できるよう話し合いで決めています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動・離職などで馴染みの職員がいなくなる事から、利用者が不穏・混乱を避けるためにも、言葉による落ち着かせるための配慮は職員みんなで統一された共有意識で対応しています。当ホームでの移動は必要と迫られた以外の移動は最小限に抑えています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は回覧・ボードによる掲示に知らせ参加，出席を勧めています研修報告会もしてます。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会などの運営参加の誘いはあるが、積極的な参加まで至らず今後は近くの同業者に呼びかけ情報の交換，勉強会など交流を深め職員の教育，利用者へのサービスの向上に努める。	○	質の向上職員の指導教育，同業者とのネットワークづくりでの連係を利用者のケアに活かす事が今後の検討課題。認知症グループホーム連絡協議会参加する予定で準備します。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス軽減策に対して休憩時間の確保，コミュニケーションによる気分転換悩み相談を聞く，職員と利用者と離れる居場所の確保し拘束をしない時間を大切にしています。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常勤職員にそれぞれ役目をもたせ責任を担い現場の状況，人間関係の把握に努め現場での声を拾い上げ職員会議で話し合いをしています。	○	職員個々の努力・実績。教育的な指導を含めて環境の整備と向上心を持って働ける雰囲気づくりも大切にしたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	常日頃より受容と傾聴に心がけ利用者の心意を汲み取り信頼関係の構築に努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族の利用者に対する，今までの関わりを労らい，今後の対応を 御家族のお話を聞きながら把握し，信頼関係を築いてます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、本人・御家族ご困っている事は何か？何が必要なのか把握し 職員の話し合い、関係機関も含め共有された情報で、サービス提供に努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境の変化に伴う利用者の不安を察し安心できる場所探し、自尊心に配慮した声かけ、他の利用者に対するアプローチなど、本人のお話を聞きながら、御家族の情報も得て、職員は対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の一方向的な介護にならないように本人の心意を見極め、コミュニケーションをよくとり、敬愛する気持ちを忘れず自尊心を傷つけることなく、なれなれしい態度は決して取らない言葉の配慮は信頼関係を築くためにも必要不可欠		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族支援の第一歩はホーム側の利用者の暮らしぶりを正確に報告することです、包み隠さず言うことで御家族は心配し、助言も言われ安心もされます。常に利用者・御家族・職員は三者が支え合う対等関係です。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム側として家族がいつでも来られる家族的な雰囲気づくりはしてます利用者の変化には電話連絡を入れることで日頃の様子を話してます。利用者の体調・おむつの残り状況・連絡事項などでの報告月2～3回連絡してますし居室金を支払時にお話しはしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参り・親戚の集まり・友人の面会・外出での食事など体調を整え御家族対応でお願いしてます。馴染みの関係が途切れない支援は以前囲碁・将棋など趣味の対応は暮会所並び職員が支援してましたが現在いません、お花を活けてる利用者は今も現役で支援協力をしています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が利用者との関わりの中で、利用者同志お話しが弾んだり交流ができるように促し、連帯意識が芽生え、上手に職員が仲を取り持ち孤独感からの解消に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後情報交換はあり再び復帰してもスムーズにおつきあいが出来ます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情・心意・態度・見て対応する職員の人選も配慮し把握に努め御家族の協力と共に、本人の意向に添って対応します。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が今まで生きてきた過程・職業歴・生い立ち・家族歴・を含めたその人らしさを、尊重しサービスの向上に努める		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のリズムを大切に心身状態のチェックもちろんこと刺激のないパターン化にならないように、その日の体調、気分などを汲み取り 暮らしの実感を提供する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的な介護計画の評価の検討を職員で話し合いアイデアなど出し合いケアに反映し家族に説明し意見など頂き、同意を求め介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の急な変化に伴う対応は入院・転倒など運営者を含め職員で検討し関連機関への協力要請・御家族の説明し柔軟に現状に即した介護計画の見直しをしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の情報の共有、申し送りでの確認、個人の生活ケース・連絡ノートの確認すべて職員に徹底しケアに活かして定期的なケアプランの評価に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族対応での食事・外泊・ドライブ・など不穏にならない配慮、内科・外科・歯科・眼科・皮膚科の受診、定期的な通院・リハビリ対応による関連病院の送迎など柔軟に支援しています緊急時の往診、御家族同意での認知的な専門医の往診も対応してます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域密着サービスの地域との交流は消防局との定期的な消防訓練徘徊者の捜索での地域の警察署の連係、地域の人達による ボランティア参加、自治会主体による催し物の参加、推進会議での協力支援に努めてます。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向、体力的な面を考え、関係機関と連携し、必要に応じて歯科医、心療内科(専門医)、理美容など出張して頂き協力支援をお願いしてます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的な会議でホームでの抱え込みを避け、利用者の暮らしの様子を御家族、地域報告することで、指導、助言、支援を頂き、連係をしています。利用者等の権利擁護の必要性としては今後の問題だと思ってます。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族の今までのかかりつけ医の状況を把握し、話を聞き、希望に添う受診対応をします、強制的な医療関連機関への受診の対応はしてません、本人、御家族との話し合って通院状況を考え家族の対応なのか？、職員での受診対応なのか？、十分に話し合って決定します		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員で専門的困難な対応をとらざる得ないときは、運営者・職員で協議し、本人、御家族に配慮し、話し合っって個別的な専門医での 受診または往診の対応をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日頃の利用者の健康管理は常駐の看護師と連係、緊急時夜間対応は利用者の体調の状況の変化を夜勤者が、報告、相談・指示看護師に仰ぐ 必要なら、院長に連絡		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本人も御家族も不安が募り、病院関係者に利用者の病態の状況把握と情報交換に努め、御家族に状況の変化など常に説明し、主治医病及び院関係者と密に連絡している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員、医師を含めた協力体制で本人、御家族の意向を汲み取り できる限りの気配りを持って支援してます。	○	過去一例看取りケアにて対応しました。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	想定される看取りケアのマニュアルはあるが実際直面する課題を今後対応できるか職員と検討していきたい。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境の変化による本人の不穏、混乱は大変な重圧と思います。 早急な情報提供の把握と自尊心に配慮した声かけで安心感と信頼感を得るように努めてます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を傷つける言葉かけ、不適切な記録など職員間で注意しあい、馴れ馴れしい職員の、態度、言葉かけなど、プライバシーの配慮 には常に注意を払ってます。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の意志、希望を促す言葉かけにて支援、決して業務に合わせるような働きかけはしていません。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを守りながら、生活が単調にならないように意思の尊重に配慮しその人らしい生活に寄り添って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合わせた服装はその人らしい身だしなみに配慮、朝昼夕の 時間によっても、気温によっても配慮したい、理美容の支援は御家族対応もあり、ホーム側の定期的対応もしてます、ヘアースタイルも本人の希望、御家族の思いなど職員等でも季節に対応して決めています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材をとりいれ、みんなで会話を楽しみながら、食事の下ごしらえを、していただき、味見、配膳、おしぼりのセットなど役目を個別配慮し「いただきまーす」の挨拶もお願いして家庭的な雰囲気です。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品は本人の体調、周りの状況に対する気配りにて お出ししています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	行きたいときに行くのを基本に自力排泄困難な利用者には排泄のパターンを把握、定期的にトイレの誘導、下剤の服用はなるべく避け、運動作用による自然排便に心がけて、プライバシーに配慮しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の利用者の体調に合わせ、本人のタイミングを図り無理強いはいしない、本人の性格を把握した上で、気持ちを盛り上げる声かけ、利用者の入浴される順番、異性入浴介助は職員も利用者の気持ちに配慮し個別対応し羞恥心、には十分きよつけてます。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活のリズムを崩さず、夜間不眠の対応は昼夜の逆転に気よ付け 軽めの運動、散歩などで工夫している、眠剤の服用は本人の日頃の睡眠状態を把握し医師に相談し服用。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の性格を把握し、運動される方、唄を得意とする方、料理の下ごしらえを好んでされる方など、その人らしい生き方を暮らしの中に取り入れるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各利用者の金銭感覚は個人差があり、日常生活での買い物されるお金はご家族との相談の上、金額を決め所持していただき、買い物の楽しみにしています。職員は金銭の使いみちを、混乱しないように説明してます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換による買い物の付き添い、足腰の衰え防止の散歩、地域での催し物での外出、季節的なレクリエーションでの外出など機会を多く設け、各利用者の体調にあわせ外出先の距離、時間など利用者に配慮し個別対応での支援もしてます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一対一での個別対応は本人の体調の急変も気なることから近隣、近距離での工夫はしてますが遠距離での里帰り、お墓参りなど、ご家族での対応です、今後はご家族の理解をして頂きお風呂好きな人には温泉、絵が好きな人に美術館、他 映画館など考えたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは制約はありません帰宅願望での頻繁な電話は職員対応にて本人の混乱防止の意味と、ご家族の配慮を考え了解を頂き控えさせ、手紙の投函、読み取り、代筆など支援してます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご本人の承諾にて訪問していただき日頃の暮らしぶりでの様子を拝見して頂き、友人、知人、親戚の面会の報告は身元引受人の方に 関係者筋を伝えてます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の受講を、職員に促し日頃より、声かけでの配慮、受容、 傾聴をもって対応する、不穏時での対応策は拘束をしない前提にて安全策を職員全員で話し合っている、ご家族にも説明している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないように努力はしていますが立地条件的に玄関を開けると交通量の多い道なので、徘徊者の配慮を考えると、矢も得ず玄関に施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の行動に対する、職員の見守りは、行動パターンを把握し 状況に対応してます、居室に戻られた利用者に対しては昼間は声かけをし状態の把握、夜間は物音による反応と入眠時での定期的な安否の確認その際はプライバシーには配慮してます。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、消毒、薬液類は手の届かない場所、刃物、はさみ類は引き出しに収納するが、生活を活かす上での使用は、安全を見極めて使用する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各利用者の危険性の状況の把握は未然に気づき職員どうしで早目の防止対策を検討し情報の共有をもってケアにあたります。ヒヤリハットでの報告検討会、御家族に報告は早急に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルの徹底と定期的な訓練にて日頃の職員の意識の向上に努めています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を利用者、職員、消防署の関係者と共に避難訓練を緊急時を想定して取り組んでいます。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者に起こり得る、リスクに対して日頃の、観察より危険性が高くなっている場合、職員間で情報の収集し話し合い、予防策を講じてご家族へ説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを初め日頃の顔色、活気の有無に気をつけ異変の気づきは、看護師に報告と必要によっては院長報告		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員の服薬の内容把握はもとより、薬に対する状態の気づきには常に注意を払うように指導しています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各利用者らの排泄パターンを予測し職員の情報を参考にし、個々の状態に合わせた量、薬の種類、頻度で服用させ、基本的には、食事、軽めの運動で自然排便に心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	生活習慣のけじめとして歯磨きの重要性を理解して頂き、毎日、食後に声かしていますが、拒否される利用者には、うがいだけでもお願いし口腔内の清潔保持をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員で食事量、排泄チェック表で尿量、本人の体調を把握し 各利用者らの嗜好に合わせ飲み物の種類を工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	消毒、うがい、手洗いの徹底とインフルエンザの予防接種も適時してます、感染症の情報は院長より随時得て、取り組んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の水周りの衛生管理は職員間で毎晩、消毒、漂白をし食材での生物は、なるべく火を通すように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご家族、お友達が気楽に立ち寄れるように玄関には季節の花を利用者に生けた花を飾り、家庭的な雰囲気作りに配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と食堂が兼用で利用者等のご家族が集まる機会が多い事からなるべく落ち着いた空間作りとしてゆっくりとお話ができるソファの配置に工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分がすぐれず、不穏時の対応は外の眺めが良い窓際に置いているソファで職員と海を眺めながらお話ができます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品は利用者の環境作りに配慮し私物的な嗜好品などはご家族と連携を取り生活に生かしてます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	下水処理、空調設備、電気関係は担当者を決め点検をしています、異常発生には直ちに業者に連絡をに対応しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内、トイレ、お風呂、など手すりを取り付け転倒で危険と思われる利用者には未然に職員で転倒防止策の改善案を考え身体機能に対応した取り組みをしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人一人のわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失検討による部屋、トイレ間違いなど本人が分かり易い居室の配置を配慮し居室の入り口にのれんをする事により混乱を防止してます。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダが狭いので洗濯物を干す生活リハとして役立て、屋上は日頃より海風が強く穏やかな風の日、気分転換を兼ねて歩行訓練の場となっています、今後は家庭菜園、お花を植えて椅子に座り ゆっくりと お茶でも飲まれる、くつろげる環境を考えたい。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム「おお空」 満天

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域との関わりの中で、利用者の方が安心して生活し安全な環境により、気楽に外出でき、地域の方のご協力を得て自治会での催し物の参加し近隣の方達のボランティア参加によるホームでの関わり中で生活に生かし、推進運営会議での民生員、包括支援センター御家族、利用者、市の職員のご指導ご意見をみんなで考え話し合い普通に暮らせる住みよい町づくりと暖かいホームづくりに取り組んでいる。